



吉崎一衛教授による講演

平成十九年度 定期総会開催

二松学舎大学 父母会報

平成5年5月10日創刊
平成19年7月31日発行
(第57号)
二松学舎大学父母会
(本 部)東京都千代田区三番町6番地16
(事務局)千葉県柏市大井2590
〒277-8585 TEL 04(7191)8756
二松学舎大学柏教学課
題字は
故 観山貞廣常吉先生書



平成十九年五月二十六日(土)、九段校舎・四〇一教室において、平成十九年度二松学舎大学父母会定期総会が開催された。

総会に先立ち、本学文学部吉崎一衛教授による「漱石と子規の贈答詩」と題した講演会が行われた。講演は、正岡子規、夏目漱石ゆかりの地を映像やパネルを用いて示され、子規、漱石の交友関係を、贈答の漢詩で読み解き、わかりやすく説明された。さらに、夏目漱石の小品『落第』(明治三十九年)に出てくる漢学塾二松学舎についても触れられ、興味が尽きなかった。

午後二時三十分、星野早苗氏の司会で総会を開会、清水会長の挨拶、

今西学長と佐藤理事長がそれぞれ挨拶した後、新澤雅子氏が議長に指名され、議事に入った。

第I号議案平成十八年度事業報告並びに決算は、審議の結果原案どおり承認された。第II号議案平成十九年度事業計画並びに予算については、新規事業の卒業アルバムは再検討が必要とし、予備費に記載の奨学金制度は、平成二十年度から実施に向けて検討することとし、これらを除いて承認された。第III号議案の平成十九年度役員選出では、会長に清水忠氏、併せて、会計監査に寺崎美智子氏・新澤雅子氏が決定した。

議事終了後、平成十八年度末で役員を退任した川名じゅん子氏・佐藤理栄子氏・高梨洋子氏に今西学長から感謝状及び記念品の贈呈があった。

総会終了後、十三階ラウンジにおいて懇親会が開催され、同学年同士、そして教職員と履修の方法や大学生活について懇談している父母の姿があり、盛会のうちに終了した。



総会後の懇親会



総会

「身近な父母会として更なる発展を」



父母会長 清水 忠

新入生のご父母の皆様、お子様のご入学おめでとう御座います。また、父母会へのご入会を心から歓迎いたします。これから、二松学舎大学父母会の一層の発展のため、本会の目標達成を目指して、手を取り合って努力していきましょう。

なにとぞ、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

本会は、会則によれば、目的は本学と父母との連絡を緊密にして、学生に対する教育指導の徹底と、併せて会員相互の親睦に資する事です。

これらを実践するために、父母懇談会の開催、本学の教育研究充実に対する支援、学生の課外活動などに対する支援、学生の福利厚生に関する事業、父母会報の発行、その他、本会の目的を達成するための事業を行う、となっております。

さて、柏校舎の机・椅子の入れ替えの手伝いも終わりましたので、学生援助方面の充実に予算を回す事ができると、奨学基金の設立に向けて

一歩踏み出す、卒業祝いとしてアルバム配布、キャリアアセンターへの支援の強化、学生会の諸活動への支援の増加、その他学生支援方面について強く実践していくという案を、過日の定期総会にて提案しました。

ところが、例年開催している卒業パーティーの会場と新規企画の卒業アルバム配布に関して、費用の面から賛否両方の活発な意見が続き、父母会の総会のことですと、賛否を多数決せずになんとか話し合いてと願っているうちに、懇親会の時間にも食い込み、やむを得ず、卒業アルバム配布の件を除いて予算は承認となりました。

役員会としては、次年度に向けて文化祭に学生から卒業アルバムを「欲しい、欲しくない」のアンケートなどとして見て学生の意向を尊重しようと思っております。また父母会全員の意向も調査して、アルバムを「卒業生の記念品」とし、学生援助の充実に一環として手渡したいと願っています。

新役員紹介

役員に就任して

大寺 龍彦

平成十九年度二松学舎大学父母会役員をさせて頂くことになりました。

創立百三十周年という節目の年に役員をさせて頂き身の引き締まる思いです。

少子高齢社会の到来により、大学教育そのものが抜本的な改革が求められており、本学も新たな取り組みを始めております。会長及び諸先輩方のご指導を頂きながら、本学の魅力である「顔が見える教育」の環境作りに大学との架橋となるべく頑張りますので、宜しくお願いします。

嶋村 育美

本年度父母会の役員を務めさせて頂くことになりました。高校に続き、大学もお世話になる事となり、娘と同様、新しい世界に期待と不安でいっぱいですが、少しでも皆様のお役に立てればと思っております。はじめての経験ですが、今の私にできることをお手伝いしていきたいと思っております。どうぞよろしくおねがいします。

幸田 類

本年度父母会役員を務めさせて頂くことになりました。

大学では、高校に引き続きお世話になりますし、新一年生として校内の事を色々知る良い機会にもなると思ってお引き受ける事にしました。活動内容は、全く解かりませんので諸先生方、先輩役員皆様の御指導のもと微力ではありますが、お役に立てればと思っております。

どうぞよろしくおねがい致します。

桐原 利之

私には四人の子どもがおり、今年から二松学舎大に御世話になるのは末子です。私のPTA活動は末子と共にあり、中・高とPTA役員を務めてまいりました。ここまですべてきたなら大学（親子とも望んで入っていた学校）まで末子に付き合おうと思いい、父母会役員に就任させて頂きました。長い間生きてきた経験を生かし、父母会活動に参画していきたいと思っております。どうぞよろしくおねがい申し上げます。

ごあいさつ



「大学の九段集約」

理事長 佐藤 保

本学は、今秋十月十日に創立百三十周年を迎えます。種々の行事とともに、本学へお寄せいただいている期待に応えるべく教育研究の内容充実のための努力をいたしております。

今西学長のもと鋭意検討を重ねています。創立記念日の頃には、全客が固まり、来春には着工ということになるのではないかと思います。百坪強の土地ですが大学の教育研究の新たな展開が大きく期待でき、また、二松学舎の将来を決める大きな事業の糸口になるものと思っております。

その一つとして、九段の地での教育研究の充実拡充を図るため、新たな土地を購入しました。靖国通りと内堀り通りとの交差点の近くの土地です。この土地の活用については、

会場で開催されることになっております。キャンパスのある東京、千葉地区は毎年、大阪等広域を対象にする地区は隔年、その他の地域では四年に一度、開催をいたしております。

「父母会地区別懇談会について」

学長 今西 幹一

父母会会員の皆様、本学年度も授業、行事等、順調に進行しております。これから夏期休暇を前に父母会の地区別懇談会をもち、大学の教育方針と実情等について理解をいただく

本年は上記地区のほか山形、福島、群馬、山梨、静岡で実施の運びになっております。東京、千葉会場は大勢の方の出席をいただき状況を呈していますが、地方に参りますと、普段簡短に大学

へ行けないゆえに、四年に一度の待ちわびていただくのがひしひしとわかります。出席率もたいへん高いものがあります。大学側も心を引き締めて望んでおります。

二松学舎はかつていままも全国の大学であります。現在減少気味の地方の出身者を少しでも回復するべく、昨年来地方での説明会、今年からは入試を行います。それとの連携を含めていっそう地方での父母会は意義が増しております。





講演会

平成19年度 総会余滴

総会出欠ハガキの通信欄から、会員の方々のご意見をまとめました。紙面の都合によりすべてを掲載することはできませんが、ご了承ください。

○下宿先を探す際、スクールバス停のある柏か我孫子のどちらかで悩み、我孫子にしました。入学してみると我孫子からのバスは、一限目は、着いてすぐ授業が始まり余裕がないという事を知りました。何とかならないものでしょうか。(文一年)

○文化祭の時とかにも懇親会があると参加しやすいのですが(文三年)

○役員の皆様にはお世話様になりました。就職が心配な学年になりました。不安になることが多く、ご指導よろしくお願いたします。(文三年)



総会

○今年度就職状況を会報で知らせていただけるとありがたいです。(政経二年)

○この時期、下の子や職場での運動会に土曜があてられることが多く、昨年も出席できませんでした。曜日、時期がずれてくれると出席しやすいのですが(文二年)

○いつもありがとうございます。遠方の為出席できませんが今後もよろしくお願いたします。(文二年)

○毎回仕事の都合で出席できず申し訳ありません。よろしくお願いたします。(政経四年)

○四年生は、就職活動の真っ最中です。学校側の理解ある態度で学生たちを最大限応援して頂きたいと思えます。(文四年)

○どうか教授の質を大事にしてほしいです。学生達に本当に心に伝えられる教授を、という意見を学校側に伝えたいです。



懇親会

いろいろお世話様です。ありがとうございます。(文四年)

○会報を楽しみにしています。遠くに離れていますので学生の活動写真が紹介されているとうれしくなります。(政経四年)

○もう少し早く日程がわかるといいです。それといつも高校の父母会と同じ日になってしまっています。(文三年)

《大学より》

スクールバス我孫子便の始発についてのご意見をいただき、早速現地にて調査を行いました。その結果、鉄道各路線の我孫子駅への到着時刻やバス乗り場への移動時間を考慮し、スクールバス始発の発車時刻を二分早めることにいたしました。六月十八日から、従来の発車時間「八時五十分」を「八時四十八分」に変更して運行しております。

氏名	学生所属	氏名	学生所属
清水 忠	中国文学科 4年	山岡 英夫	国文学科 2年
星野 早苗	国文学科 3年	福井 文子	国文学科 2年
渡邊 了好	副会長(学務局長)	坂巻 祐子	国文学科 2年
寺崎 美智子	会計監査 国際政治経済学科 4年	多田 博子	中国文学科 2年
新澤 雅子	会計監査 国文学科 3年	大寺 龍彦	国文学科 1年
小川 実千江	委員 国文学科 4年	嶋村 育美	国文学科 1年
雨海 洋子	委員 国際政治経済学科 4年	幸田 類	国文学科 1年
高須 文子	委員 国際政治経済学科 3年	桐原 利之	中国文学科 1年

平成19年度役員

平成19年度 二松学舎大学 父母会定期総会議事録(抄)

日時：平成19年5月26日(土) 13:30~18:30
 場所：九段校舎 401教室
 講演：漱石と子規の贈答詩
 二松学舎大学教授 吉崎 一衛先生
 出席者：本年度会員数 3,041名
 委任状 860名
 出席者 57名 合計917名

大学側：今西学長、佐藤理事長、渡辺副学長
 渡邊学務局長、小林学務局次長、井上教学部長
 高柳柏教学副部長、志村教学課長
 菅原柏教学課長、村瀬柏教学課員

1. 開会の辞 司会：星野早苗
 司会者より、「本日総会時の会員数は、3041名であり、父母会会則第9条により委任状を含めて609名の出席が必要です。本日の出席者は57名。委任状860通。合計917名です。よって本日の総会は成立する。」との説明があった。

続いて、清水忠父母会長、今西幹一学長、佐藤保理事長からそれぞれ挨拶があった。

2. 議事指名
 司会者より「総会の議長は父母会運営細則により会長または会長の指名するものとなっており、会長より新澤雅子さんが指名されているので、新澤議長のもとで議事を進行させたい」との説明があり、新澤氏が席に就いた。

3. 書記・議事録署名人名指
 新澤議長が書記及び議事録署名人として次の各氏を指名した。

書記 雨海洋子氏
 議事録署名人 高須文子氏、山岡英夫氏

4. 議事
 ◇第1号議案〈平成18年度事業報告並びに決算〉
 清水会長より、議案書に基づき概要説明があり、続いて小川・寺崎会計監査より監査報告があった。審議の結果、原案のとおり承認された。

◇第2号議案〈平成19年度事業計画並びに予算〉
 清水会長より、議案書に基づき概要説明があった後、主として次の項目について意見があった。

- ・地区別父母懇談会について
- ・卒業パーティーについて
- ・卒業アルバムについて
- ・予備費の奨学金制度について

上記の項目について質疑応答の後、審議の結果、卒業アルバム及び予備費の奨学金制度(平成20年度実施を目指す)を除いて平成19年度予算案を承認した。

◇第3号議案〈平成19年度役員選出〉
 新澤議長から、会則第6条・8条に基づき、総会において役員(会長・会計監査)を選出することとなっているとの説明があり、その選出方法について諮られた。選出方法が議長に一任されたのを受け、新澤議長から前回同様、大学側に候補者の推薦を依頼したいとの提案があり、承認された。依頼を受けた大学側(渡邊学務局長)より次の各氏が推薦された。

会長 清水忠氏
 会計監査 寺崎美智子氏、新澤雅子氏
 新澤議長が大学側から推薦された各氏について諮ったところ異議なく承認された。

続いて清水会長より就任の挨拶があった。
 議事終了後、下記の退任役員へ今西学長より感謝状と記念品が贈呈された。

川名じゅん子氏、佐藤理栄子氏、高梨洋子氏

5. 閉会の辞 司会 星野早苗

◇懇親会
 九段校舎13階ラウンジに移動し、懇親会が開催され、18時30分盛会のうちに終了した。

第1回役員会開催

平成19年度第1回役員会が、6月23日(土)柏校舎で開催されました。

当日は、清水会長をはじめとして新役員4名を含めた13名の役員が出席しました。

役員会では、本年度の役員の業務分担(広報・企画)、年間活動予定、更に父母会報第58号の編集等について審議しました。

次回役員会は9月の予定です。

時間がない。私がここに入学してから常に感じていることです。校舎前の桜は疾風に散り、新緑はその輝きを増し始めました。新入生の不安と緊張感が静まっていたキャンパス内も、いつの間にかやが明る笑い声で溢れています。その只中に居られる事を感謝しつつ、とても充実した日々を過ごしています。他の人もそうである事は、通りすがった時の表情一つでも容易に察する事が出来ます。一人一人自分の居場所を見つけ、生きがいを探している途中なのでしょう。それぞれの持つエネルギーが、目に見えるかのようです。この学生は教員志望者が多くを占めていると聞きますが、私もその内の一人です。国語の教員になるという幼少からの夢は、未だ潰える事なくこの胸に留まっています。私にとって大学とは、学を修める場所に他なりません。もちろん友人と親交を深める事も大事です。サークル活動等も貴重な経験となるでしょう。しかし、決して遊びに来た訳ではないのです。両親もそんなつもりで、遠く北海道から送り出して



中国文学科
岡藤 香織

くれたのではないはずですから。高校受験に大学センター入試、一通りの受験戦争は味わったつもりです。けれどあと少しの間だけ、自ら苦勞する道を選んでみようと思えます。夢が叶うのならば、そのための苦勞などあつて無いようなものです。苦勞は後に必ず大きな糧となります。教わった事は残さず吸収し、やがては自分が教える立場になる事です。を還元していきたくと思うのです。とにかく多くの事を学びたいです。そのためには四年という歳月すら短く感じます。自分はこの限られた時間、何をどこまで身につけられるのか、そういう不安もあります。高校から親元を離れ、早四年。けれど困った時最後に頼りにするのはやはり両親です。この大学生活では本当の意味での自立を目指すように思っています。常に社会との関わりを意識して行動する事が、今の学生には求められていると思うのです。



大学に入学して

桜花爛漫の四月の入学式からはや三ヶ月余。七二三名を数えた新入生もキャンパスでの生活にも慣れ、ようやく大学生らしくなってきました。高校時代とは異なり、自分の裁量・責任で、判断・選択し、創り上げていく生活が始まりました。新たに出会う、様々な経験を得た学友が二松学舎で新しいスタートを踏み出しました。ここでは、大学生活に対する抱負・意気込みを各学科から三名の新入生に書いてもらいました。



二〇〇七年四月三日。生憎の雨の中、この日のために買ってもらったスーツとネクタイを初めて身に纏い、ネクタイの結び方すら分からぬまま、これから始まる大学生活に心を躍らせ、期待と少々不安を抱えながら、新入生代表として壇上で宣誓をし緊張し臨んだ入学式。それから約三ヶ月経とうとしている。高校の先生方からはもちろんのこと、家の人からも、大学は自由で楽しい所。大学生活の四年間もあつたという間に終わってしまうと聞いていました。その分、自己責任をしっかりと持って、これまで以上に積極的に生きていきたい。しかし、通学時間、片道二時間。授業時間も一限九十分。授業時間割も、自分が専攻するものも、将来のことを考えながら選択をし、一年から四年まで混ざった大教室で履修し単位を取る。進級することも、四年間で卒業も、もしかして危ういのでは。とにかく慣れるまで必死で、戸惑うこと、大変なことがかりで、早々にくじけてしまいたいような自分がいたことは確かです。



国文学科
佐藤 新太郎

二松学舎大学へ進学し、教職課程を取り、教員になる。この目標を念頭に置き、話に聞いていたように、あつという間に終わってしまう大学生活四年間、貴重な時間を思う存分大切に楽しみながら学んで過したいと思ひ、サークルにも入り、参加して新しく友人をつくり、先輩ができました。共に汗を流し、互いに支えあつたり、協力しあひ、この大学でしか手に入らないものが必ずあると思うので、その中で、後悔の残らぬように、初めてのことにちゅうちよくなく挑戦し、新たな自分を発見できれば良いと考えています。二松学舎大学の学生生活四年間を有意義に、後から振り返った時、本当にこの学校へ通えたことが良かった、素晴らしいと思えるように、過ごしていきたいと思っています。



早いもので、大学に入学してから約三ヶ月が過ぎようとしています。大学という新しい環境には、だいぶ慣れてきましたが、まだ多少の不安が残っているのも確かです。また、大学生という自覚が芽生え始めた一方で、まだ恥ずかしながら高校生の殻から抜け切れない自分に気づき始めたのもここ最近です。私の大学での目標は、「自らの視野を広げること」です。今までは、ある物事に対して一方的に捉えることが多々ありました。一種の先入観のようなものに囚われていた気がします。これからは、そういった物事の見方を多面的、多面的に捉えられる能力を身に付けたいと思っています。大学というものは高校とは違い、与えられた物事を行うだけでなく、自らが判断した物事に対して責任と自覚を持つて取り組む場です。自らが判断する場合において、一方的な捉え方しか出来ないようでは選択の幅が狭まってしまいます。また、大学は社会に出る為の準備期間を与えてくれている場でもあります。社会に出れば一層、責任を伴った自ら判



国際政治経済学科
本田 健太郎

断する能力が必要になってきます。そういう意味からもこの目標を達成することは将来の自分にとっても大きな財産になるはずですが、自ら判断し自ら行動するというのは日本という国家の一構成員(国民)として必要不可欠な能力だと思っています。そして、大学に入学したからには自分の人間としての引き出しを増やしたいと思っています。これは、前述した目標にも繋がってくるのです。人間としての引き出しというのは、簡単に言って自分自身の感性です。感性を豊かにするには大学という場を利用して、多くの人と出会い、様々なものの見方を知る必要があるでしょう。何事も、最初にしっかりと目標を持つことが重要です。その目標に向かって邁進することが大学生活を楽しむための第一歩だと思います。



POP!GUTS!2007 開催

GUTS 改題
POP!GUTS!2007
文化の部
一年 山本晃司

本年度は文化の部の名称がPOPと改められました。

球技の部と明確に区分したことも相乗し、六月十七日には、大盛況のうちに無事幕を閉じることができました。ご協力いただいた皆様へ感謝し、御礼申し上げます。

まず、POPに来た人のステータスは、「白い奴らオリンパス」を見かけたことです。パルテノン神殿型の御輿につぎたての餅をのせ、白塗りのギリシャ人に扮した二人が校舎内を練り歩き、餅を配布しました。美味しい餅を頬べる皆様の顔は、大変幸せそうでした。

今年から新デザインの「スタンブラー」も、ウサギのスタンプが可愛いと評判で、コンプレットした人たちは自

慢げに景品を抱えていました。同じく今年から炎天下のオアシス、「カキ氷」が加わりました。開始直後から沢山の人が並んでいただき、大好評のうちに完売御礼となりました。

昨年に引き続きの「七夕」は、夏先取りのように暑い一日に涼しく彩りを加えてくれました。皆様が、短冊に寄せてくれた願いが叶いますように。

一芸に秀でし者たちが集う「セカンドストリート」では、大道芸、アカベラ、落語それぞれに練習の成果を発揮し、観客に喜ばれていました。ジャグリングに関しては、子供さんたちの羨望の的となっていました。数年前には二松学舎の七福亭に本部希望者が殺到することでしょう。

校舎内での団体発表並びに展示につきましては、日ごろの活動の集大成として高い評価を得ていました。特に二松学舎のオリジナリティ溢れるものには、来場者の皆様から感嘆の声が上がっていました。



もちつき大会

来年は、今年の反省を生かし、更に多くの人に楽しまれるPOPとなることでしょう。

「GUTS 2007」球技の部
一年 木内勘太

六月二十三日と二十四日にGUTSが開催されました。

まだ梅雨明けされていない天候のもと、気温も高い中、白熱した試合を展開し、怪我人もなく大成功で幕を閉じることができました。ご協力いただいたお手伝いの皆様、各試合の審判をやっていた各団体の皆様本当にありがとうございました。

GUTSではフットサル、バスケットボール、バレーボール、ソフトボールを開催しました。

ソフトボールでは炎天下の中、熱い試合をしていただき、途中いろいろとアクシデントがありました。が無事試合を終えることができました。バスケットボール、フットサル、バレーボールは、体育館での試合で蒸し風呂のように暑い中で試合でしたが、誰一人怪我もすることなく、



大道芸研究会(七福亭)

そして誰一人だらと行動することもなく大学生らしい動きでスムーズな試合運びをして盛り上げてくれました。そして、一位二位三位の皆様には賞品が授与され満足のいく幕を閉じました。

すべてがうまくいったとはいえず、各団体の選手の皆様から意見や大切なご意見や感想をぜひ来年のGUTSで活かせるように工夫していきたいと思っております。

今年皆様のご協力のもと、うまく成功を収めることができました。来年もぜひ今回の反省と意見を取り入れたGUTSができるよう努力いたします。本年度は本当に皆様のご協力ありがとうございました。



新入生歓迎会

新入生歓迎式典を終えて

こんにちは。学生会執行委員会で本年度の会長を務めさせて頂いております。黒澤達と申します。

平成十九年四月七日に、我が二松学舎大学の柏キャンパスにて、毎年恒例となっている『新入生歓迎式典』、通称『welcome 祭』を開催致しました。附属校出身の新入生以外この時点では知人、友人がほとんどいなかった事でしよう。緊張した面持ちで登校してきた新入生はまず、受付で父母会に援助して頂いたサンドイッチを受け取った後、式典のメイン会場である五〇一教室に移動し、歓迎式典が始まりました。発表の順番は、まず、武道系団体が発表し、次に文化系、運動系の部活が発表を行いました。

そして最後に発表を行ったのが公認サークルです。サークルということもあり気楽に入れるので毎年多数の構成員を確保しており、本新入生歓迎式典でも大いに盛り上がりました。

さて今年目標は、毎年長引いてしまっている五〇一ステージを迅速かつシンプルにして、新入生に教室



発表と中庭での発表をじっくり見てもらうようにすることでした。目標通り五〇一ステージの発表が早めに終わったので、新入生達は教室での在校生による詳しい部の説明や体験等を十分に味わう事が出来たのではないのでしょうか。

しかしながら我が二松学舎大学の部活動、サークル活動へ参加する学生の数は年々減っている傾向にあります。来年度も新入生歓迎式典を盛り上げていき、これからは部活動低迷を打開する為に新入生歓迎式典をより一層盛り上げなければならぬと強く実感しました。

キャリアセンターだより⑦

お申し込みが内定していないようでしたら、キャリアセンターに相談するようにお話し下さい。

（教員・公務員）

公立学校の教員採用試験は、七月の第二土曜日を中心に一次試験（筆記）が実施され、その結果は八月初旬頃に判明します。最終結果が判明するのは十月末頃です。

たOGは入社二年目から支店長の信頼も厚く大きな取引を任されています。中堅の電子機器商社のOBは入社九年で香港支店長になっています。大手企業では考えられないことです。まさに、「鶏口となるも牛後となる勿れ」です。

（内定状況について）

四年生の企業への内定状況は、六月二十日現在、就職希望者の六六%です。逆に言えば三四%はまだ決まっていないこととなります。その理由としては、①今年就職環境が学生に有利なので、十分な準備をしないまま就職活動をスタートした。②出版社や広告会社など人気業種しか受けない。しかも事前準備不足（実力不足）。③大手企業だけを受験した。などが挙げられます。

キャリアセンターでは、未内定の四年生に対し、万全の体制にて個別にフォローいたします。本学の学生を是非採用したいという企業の採用担当者が連日来校しております。

次回の父母会報でご報告いたします。公務員のうち警察官採用試験の結果についても次回の父母会報での報告となります。

（卒業生の評判について）

キャリアセンターでは、卒業生の就職企業を毎年百社以上訪問しています。また企業の採用担当者も多数キャリアセンターに来訪されます。その中で大手企業よりも中堅中小企業に就職した卒業生は、入社後二・三年で高い評価を得ています。都内の信用金庫入庫二年目のOGは、学生募集のホームページの「顔」として登場するだけでなく、掲載文章も広報担当から激賞されており、また、建築塗料メーカーの中堅企業に就職したOGは入社二年目から支店長の信頼も厚く大きな取引を任されています。中堅の電子機器商社のOBは入社九年で香港支店長になっています。大手企業では考えられないことです。まさに、「鶏口となるも牛後となる勿れ」です。

《谷口ゼミナール》

私達のゼミでは日本文化の中でも、「子どもの民俗学」をテーマに学んでいます。一口に「子どもの民俗学」と言っても、地域や時代によって多種多様な信仰や慣習が見られます。「七つ前は神のうち」と言うように、かつての子どもの民俗は現代よりずっと死亡率高く、死の世界に近いと言ったことから神に近い存在とされてきました。そんな子どもたちを守るため、誕生したその時から数々の成長儀礼や年中行事、祭り

《水本ゼミナール》

こんにちは。私達のゼミは、昨年度から始まった新しいゼミで、現在は、第一期生である四年生七名に加え、三年生十九名という大所帯ですが、非常に仲がよく、やる気のある学生ばかりが集まっています。ゼミでの研究対象は三年生と四年生で異なっていますが、現在の三年生は、「アメリカ外交史」について研究しています。授業の流れは、事前に決めた報告者が十五分ほど報告を行った後、その報告内容に関しての質

などが行われます。このような慣習を調査発表し、民俗社会における子どもを考察していきます。発表は、子どもに関する民俗学の著書・論文を読み込んでレジュメを作成し、個人またはグループで行います。発表ごとにゼミ生同士の質疑応答があり、また先生からも丁寧な補足説明やアドバイスをいただけるので、足りなかった部分、気づけなかった部分の確認ができ、より理解を深められます。更に発表した内容は、後に振り返ることができるように、ゼミ論集として一冊にまとめられています。間や議論をおこなう、といったものになっていきます。最初の授業で、

ゼミ探訪

水本先生は、「学生主体でゼミを進めて欲しい」とおっしゃり、授業中はゼミがスムーズに進むように手助けを下さるだけなので、報告者は勿論のこと、他のゼミ生も、報告者の発表を理解するため、必ずテキストを読み、自分なりに疑問点や考えをまとめなければならぬので、とても大変です。しかし、この過程を経た後に行われる授業は、非常に内容が濃いもので、議論においては、毎回、熱い意

れる予定です。また年二回の合宿では、卒業研究に向けての発表を行います。普段のゼミとは異なり、卒業研究にて取り組む内容なので、各人の個性あふれる発表となっています。同時に、皆の発表を聞く事により、卒業研究への意識が高まります。民俗学は、民間信仰や行事などを通して当時の人々の思考や価値観を知る事ができます。それは、現代に生きる私たちが異なる部分も多々ありますが、そこもまた面白いところの一つなのだと思えます。見が交わされ、とても充実したものになっています。これを行うことによって、自分だけでは得ることが出来なかった新しい視点を得ることができ、とても勉強になります。いつも時間が経つのが早く、「もっと議論をしたかった」という気持ちになります。毎回、このように行われる私達のゼミでは、楽しくて有意義な時間を過ごすことが出来るので、とても思い出深いものになると思います。まだ出来たばかりのゼミですが、これからも、水本先生やゼミ仲間とともに頑張っていきたいと思えます。



編集後記

桜と共に入学式に参加したと思ったら、もう夏。今年は天候不順で今日(七月二十三日)も梅雨があけませんが、明日はあけるでしょう。夏がきて、日まわりが咲き、蝉が鳴き、麦ワラ帽子、入道雲・夕立と、真夏の中にひたる季節が参ります。ここに本年度の第一号を送ります。本部では、父母の皆様のご投稿をお待ちしています。投稿の量によっては、欄をつくって全国の父母の皆様のお考え、ご意見、ご希望、お悩みごとなどを載せたいと思っています。さて、二松学会大学は創立一三〇年を迎える日本の漢学の老舗で、その研究の中心です。いろいろな公開講座が用意されています。父母会員の皆様方の積極的な受講をお待ちしています。漢詩や書道の講座などから、もっと専門的に深く面白い講座まで取りそろえてあるということですので、私達がこれから勉強しても決して遅くないですね。むしろ知る楽しみは大いなる快楽です。さて、本年度の地区別父母懇談会も七月中に大方終了しました。会員の皆様も大勢様で参加なさったでしょう。疑問の点があれば、何でも相談下さい。では、よい夏をお過ごし下さいませ。

学生相談室

だより 57

カウンセラー 原 信夫

定期試験も終わり、大学の夏休みが始まります。高校よりも長い期間が休みに当てられていますから、学生たちの過ごし方も様々で、一年生は大学生になったと実感できる時期の一つではないでしょうか。多くの学生がアルバイトやサークル活動に打ち込むようですが、中には「早く大学が始まらないか、長すぎて暇をもてあます」という学生もいるようです。大学生活では、自ら選択して決定する自由が与えられているのですが、それをうまく使いこなすことに不自由さを感じてしまうのかもしれない。暇な時間や何もしないことを恐れて、忙しく用事を作ろうとする学生もいます。「目標や打ち込むことが見つからない」という訴えを聞くこともあります。自分で考えて選択する、自分で好きなように時間を使う、どれも高校までの生活ではあまり経験しなかったことなのでしょう。

はありませぬ。自分がどの集団に所属し、どんな居場所を見つけているか、これも高校のように初めからクラスが割り当てられているわけではないので、最初のころは戸惑う学生もいるようです。自分の居場所を作り、したいことや目標を決めることは、広い意味での自己作りの体験です。将来や進路について考えを巡らせ、いままでの自分を振り返る、そうした自分を模索する時間を大学生活の中で持つことも大切なのではないでしょうか。休みの期間を通して、新たな自分を見つけてほしいと思います。学生相談室からのお知らせを一つ。今年度から、学生相談室の隣の部屋に、誰でも自由に使える「フリースペース」という場所を設けました。居場所がなかなか見つからない学生や、一人で過ごす時間を持ちたいと思う学生に、ちょっと立ち寄ってもらえる部屋です。相談室を開けている時間帯に開室しています。

- 二松学会大学創立一三〇周年記念展
二松学会と近代書道
- 今年、本学は創立以来一三〇年になりました。これを機に、本学と近代日本書道との関係の深さに注目し、関係者の作品を展示します。
- 期 間：平成十九年九月二十日(木)～十一月九日(金)
- 会 場：九時～十六時
(入館は、十五時三十分まで)
- 二松学会大学九段校舎
大学資料展示室及び十三階
展示コーナー
- 休館日：白曜日・祝日
観覧料：無料
- 後 援：二松学会松谷会
- 書跡展示者名
- 山田方谷
 - 三島中洲
 - 日下部鳴鶴
 - 洪沢栄一
 - 犬養木堂
 - 落合直文
 - 長尾雨山
 - 黒木欽堂
 - 夏目漱石
 - 比田井天来
 - 尾上紫舟
 - 田代秋鶴
 - 鈴木翠軒
 - 石橋岸水
 - 金子清超
 - 上田桑鳩
 - 山田正平
- 詳しくは、大学ホームページでご確認下さい。
- 《お問い合わせ》
東京都千代田区三番町六一十六
TEL 〇三一二六三三三六三六四
(附属図書館)

さで、二松学会大学は創立一三〇年を迎える日本の漢学の老舗で、その研究の中心です。いろいろな公開講座が用意されています。父母会員の皆様方の積極的な受講をお待ちしています。漢詩や書道の講座などから、もっと専門的に深く面白い講座まで取りそろえてあるということですので、私達がこれから勉強しても決して遅くないですね。むしろ知る楽しみは大いなる快楽です。さて、本年度の地区別父母懇談会も七月中に大方終了しました。会員の皆様も大勢様で参加なさったでしょう。疑問の点があれば、何でも相談下さい。では、よい夏をお過ごし下さいませ。

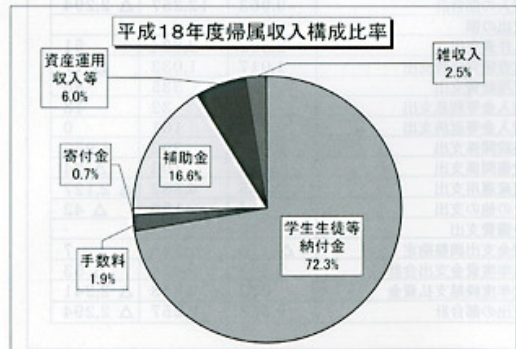
別表1 消費収支計算書 (単位:百万円)

科目	平成18年度	平成17年度	増減
消費収入の部			
学生生徒等納付金	3,775	3,832	△ 57
手数料	99	96	3
寄付金	34	73	△ 39
補助金	868	736	132
資産運用収入	270	126	144
資産売却差額	43	40	3
事業収入	1	7	△ 6
雑収入	130	140	△ 10
帰属収入合計	5,220	5,051	169
基本金組入額合計	△ 1,009	△ 453	△ 556
消費収入の部合計	4,210	4,598	△ 387
消費支出の部			
人件費	2,818	2,794	24
教育研究経費	1,377	1,221	157
管理経費	367	337	30
借入金等利息	32	32	△ 1
資産処分差額	19	7	12
徴収不能額	3	2	1
消費支出の部合計	4,616	4,392	224
当年度消費収入超過額	△ 406	205	△ 611
前年度繰越消費収入超過額	4,000	3,775	225
基本金取崩額	-	20	△ 20
翌年度繰越消費収入超過額	3,594	4,000	△ 406

別表3 貸借対照表 (単位:百万円)

科目	平成18年度末	平成17年度末	増減
固定資産	22,167	20,290	1,877
有形固定資産	12,480	12,358	122
その他の固定資産	9,687	7,933	1,755
流動資産	4,005	4,239	△ 234
資産合計	26,172	24,529	1,643
固定負債	4,096	2,981	1,115
流動負債	1,312	1,387	△ 76
負債合計	5,408	4,369	1,039
基本金	17,170	16,160	1,009
翌年度繰越消費収入超過額	3,594	4,000	△ 406
負債・基本金・消費収支差額合計	26,172	24,529	1,643

注 別表の金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計など数値が計算上一致しない場合がある。



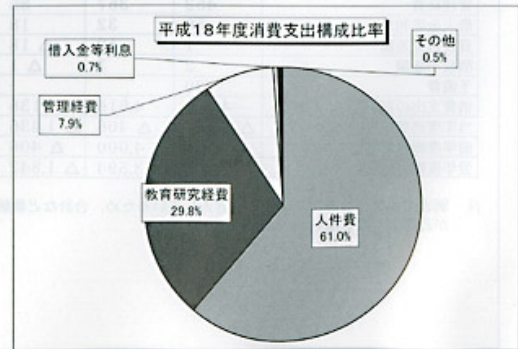
別表2 資金収支計算書 (単位:百万円)

科目	平成18年度	平成17年度	増減
収入の部			
学生生徒等納付金収入	3,775	3,832	△ 57
手数料収入	99	96	3
寄付金収入	26	43	△ 18
補助金収入	868	736	132
資産運用収入	270	126	144
資産売却収入	2,283	7,591	△ 5,307
事業収入	1	7	△ 6
雑収入	130	140	△ 10
借入金等収入	1,201	0	1,201
前受金収入	951	989	△ 38
その他の収入	280	443	△ 163
資金収入調整助定	△ 1,145	△ 1,013	△ 132
当年度資金収入合計	8,738	12,991	△ 4,252
前年度繰越支払資金	3,518	5,312	△ 1,793
収入の部合計	12,257	18,302	△ 6,046
支出の部			
人件費支出	2,804	2,743	61
教育研究経費支出	1,033	867	167
管理経費支出	335	299	35
借入金等利息支出	32	32	△ 1
借入金等返済支出	101	0	100
施設関係支出	392	71	321
設備関係支出	103	113	△ 10
資産運用支出	4,582	10,670	△ 6,088
その他の支出	156	134	22
資金支出調整助定	△ 123	△ 146	24
当年度資金支出合計	9,414	14,784	△ 5,370
次年度繰越支払資金	2,843	3,518	△ 676
支出の部合計	12,257	18,302	△ 6,046

別表4 主要な消費収支計算書関連比率 (単位:%)

比率	計算式	平成18年度	平成17年度	17年度全国平均
人件費比率	人件費/帰属収入	54.0	55.3	52.7
教育研究経費比率	教育研究経費/帰属収入	26.4	24.2	29.2
管理経費比率	管理経費/帰属収入	7.0	6.6	9.5
帰属収支差額比率	(帰属収入-消費支出)/帰属収入	11.6	13.0	6.2
消費収支比率	消費支出/消費収入	109.6	95.5	110.3
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金/帰属収入	72.3	75.9	63.6
補助金比率	補助金/帰属収入	16.6	14.6	13.2
基本金組入比率	基本金組入額/帰属収入	19.3	8.8	14.9

注 「全国平均」は、日本私立学校振興・共済事業団集計による学生生徒数3千~5千人の大学法人の平均を示す(110法人)。



学校法人二松学舎(二松学舎大学・同附属高等学校・同附属沼南高等学校)の平成18年度決算、19年度予算の概要を掲載いたします。

学校法人二松学舎 平成18年度決算の概要

平成18年度の状況

入学者数は、少子化等の影響が否めず大学・附属高校で16年度から減少が続いている。学生生徒等納付金は減少、補助金収入のうち経常費補助金は横ばいであり、これらの収入源を資産運用収入で補う形となった。

主要事業は、大学柏校舎体育館の耐震化工事、沼南高校東校舎防音工事および南校舎の耐震化改修工事、附属高校内装工事、その他必要な施設・設備維持管理工事を行ったほか、教育研究体制の充実および環境改善のため19年度事業計画の一部を繰上げ実施(総額1,800万円)した。また、附属高校の移転計画のため、校地校舎整備資金として第2号基本金の組入れ(5億円)を実施した。大学九段集中のための校地取得は次年度の実施となった。

平成18年度の決算概況

学校法人における決算書は、事業年度の消費収入と消費支出の均衡状態や財政の健全度合いを示す消費収支計算書、学校法人の諸活動に関わるすべての資金の流れを示す資金収支計算書および年度末における資産・負債・正味資産の状態を示す貸借対照表から成っており、それぞれ別表1、別表2および別表3のとおりである。

1. 消費収支計算書について(別表1)

消費収支計算では、18年度帰属収入は、52億2,000万円、消費収入42億1,000万円に、消費支出は46億1,600万円になり、4億600万円の消費支出超過となった。消費収入では、大学・附属高校で入学者が減少し、大学・沼南高校では在籍者が減少したことにより、学生生徒等納付金は前年度比減少となった。補助金は、経常費補助金は大学が前年度比増加、附属高校・沼南高校で減少となったが、大学の体育館耐震補助金、沼南高校防音・耐震補助金の交付があり、全体では1億3,200万円の増加となった。また、資産運用等の収入は1億4,700万円増と前年度比増した。消費支出のうち人件費の増加は、定期昇給・昇給率変更の実施等によるものである。教育研究経費は、大学体育館修繕費増、附属高校校舎修繕費、新規契約の賃借料の増、沼南高校校舎修繕費、特進クラス奨学金の増等により、前年度比1億5,700万円増加した。管理経費は、九段下看板設置等広報費の増、学校案内パンフレット等印刷費の増等により、前年度比3,000万円増加した。

2. 資金収支計算書について(別表2)

資金収支計算では、施設設備関連の支出が防音・耐震工事などで3億9,200万円あった。資金運用のための有価証券の購入・売却は前年度に比べ減少し、収入・支出ともに前年度比減少した。また、平成15年度私学事業団借入金(九段校舎建築資金)の元本返済支出1億円があり、当年度新たに校地取得資金としての借入金収入12億円があった。そのほか第2号基本金、第3号基本金への組入れがあり、これらの結果、18年度末の次年度繰越支払資金は、前年度末より6億7,600万円減少し、28億4,300万円となった。

3. 貸借対照表について(別表3)

資産の部は、大学柏校舎体育館の耐震化工事、沼南高校東校舎防音工事および南校舎耐震化改修工事等の設備投資により、有形固定資産が増加した。また、運用財産として有価証券・施設整備のための特定資産が前年度に比べ増加し、その他の固定資産は前年度末より17億5,500万円の増加となった。流動資産は、債券の購入等により現預金が減少した。

負債の部は、校地取得資金として私学事業団からの借入金があり長期借入金が増加した。そのほか退職給付引当金が前年度比増加、前受金が減少している。

基本金の部は、固定資産取得により第1号基本金に5億3,400万円(うち2号からの振替額3億7,500万円)、大学柏校舎整備資金・附属高校整備資金・沼南高校整備資金として第2号基本金に8億円(うち1号への振替額3億7,500万円)、奨学金として第3号基本金に5,000万円を組み入れたことにより、前年度比10億900万円の増加となった。

これらの結果、貸借対照表は、平成18年度末で資産の部261億7,200万円、負債の部54億800万円、基本金の部171億7,000万円、消費収支差額の部における翌年度繰越消費収入超過額35億9,400万円となり、正味資産は207億6,400万円となった。

4. 主要な消費収支計算書関連比率について(別表4)

財務比率は、概ね良好である。平成18年度は、消費収支関係比率では人件費比率(人件費の帰属収入に占める割合)が前年度比減少したが、これは帰属収入のうち資産運用収入の割合が高くなっているためである。管理経費比率(管理経費の帰属収入に占める割合)、消費支出比率(消費支出の帰属収入に占める割合)、補助金比率(補助金の帰属収入に占める割合)、基本金組入比率(基本金組入額の帰属収入に占める割合)とも良好な水準にある。

学校法人二松学舎 平成19年度予算の概要

平成19年度の状況

平成19年度は、二松学舎創立130周年を迎える。記念事業として式典、祝賀会、講演会、各種シンポジウム等、各種記念出版物の発行、書道展、公開学術講座、ブランドイメージの募集などを計画しているが、大きな柱となるのは大学の九段集約計画であり、そのための校地の取得と「130周年記念校舎」の建設を開始する計画である。

また、18年度に受けた第三者評価および格付の結果を公表・活用し、自己点検・調査を実施し各種改善策を図ると共に、本学の知名度(ブランド力)の向上、入学者の増大に結び付ける。教育研究の推進、教育の見直し、学生募集・広聴体制の見直し、就職・キャリア教育の充実など学生の入口出口対策、キャンパス整備、人事計画と組織の効率化、財政改革等、21世紀二松学舎像の策定を目指すマスタープランに従って段階的に実施する。

キャンパス整備については、大学柏校舎のバリアフリー化およびクラブ棟の耐震・改修工事、九段校舎図書館施設の各種改善、沼南高校西校舎の防音工事、附属高校の改修・アメニティの向上等、教育・研究環境整備と防災機能の強化を行う。

キャンパス整備計画の具体化を踏まえ、135周年を目指した募金活動を開始し、収入の一助とするとともに安全性に配慮した資産運用を積極化させ収益向上を図っていく方針である。また、財務改革の大きな方策の一環として本学出資により立ち上げた事業会社(二松学舎サービス)の事業を軌道に乗せ、学生、教職員へのサービス向上に資する新規事業を開拓し、収益事業の一環として対応していく。

かかる状況下、財務運営についてはこれらの支出の財源を確保するため、経営の見直しを行うとともに、安全性を考慮した資産運用等により収支改善を図ることを平成19年度の予算編成方針とした。

平成19年度の収支状況

1.消費収支予算について(別表5)

(1)消費収入の部について

- ①収入の柱である学生生徒等納付金は、大学、沼南高校で在籍者数の減少により前年度実績と比べて、1億100万円減少し、36億7,400万円となる見込みである。
- ②寄付金は、創立130周年記念事業、5年後の135周年記念事業に伴う募金活動を計画・開始すること等により、8,200万円を見込んでいます。
- ③補助金は、私立大学等経常費補助金および東京都(附属高校)、千葉県(沼南高校)の補助金が減少となる見込みである。当年度は沼南高校西校舎の防音工事に係る補助金を3,600万円程度見込んでおり、7億2,200万円を計上している。
- ④資産運用等収入は、資産の効率的運用を行い、3億5,000万円を見込んでいます。
- ⑤基本金組入額は、大学・附属高校・沼南高校整備資金として8億円の第2号基本金の組入れを行い、大学九段集約のための校地の取得ほか固定資産の取得額である第1号基本金組入見込額と合わせて20億9,000万円を計上している。

(2)消費支出の部について

- ①人件費は、28億4,700万円と、前年度に比べ2,900万円の増加を見込んでいる。
 - ②教育研究経費は、施設・設備の改善費用、情報システム関連経費のほか、創立130周年記念事業費(主に出版刊行物、展示会費用等)を繰り込み、13億7,100万円を計上している。
 - ③管理経費は、教育研究経費と同様に施設・設備の維持管理費と事務システム関連経費のほか、創立130周年記念事業費(主に広報費)を繰り込み、前年度に比べ8,500万円増加し、4億5,200万円を見込んでいる。
- これらの結果、繰越収入は50億円、基本金20億900万円組入後の消費収入は29億1,000万円、消費支出は47億5,200万円となり、18億4,200万円の消費支出超過の見込みである。

2.資金収支予算について(別表6)

収入の部は、学生生徒等納付金収入、補助金収入の減少等により、前年度に比べて減少の見込みである。また、支出の部は、資産運用支出の減少等により、前年度に比べて減少の見込みであり、収入・支出とも前年度に比べて減少を見込んでいる。次年度繰越支払資金(現金・預金)は6億200百万円となり、前年度比22億4,100万円の減少となる見込みである。

別表5 消費収支予算書 (単位:百万円)

科 目	平成19年度 予 算	平成18年度 実 績	増 減
消費収入の部			
学生生徒等納付金	3,674	3,775	△ 101
手数料	90	99	△ 9
寄付金	82	34	47
補助金	722	868	△ 146
資産運用収入	300	270	30
資産売却差額	50	43	7
事業収入	7	1	6
雑収入	75	130	△ 55
附属収入合計	5,000	5,220	△ 220
基本金組入額合計	△ 2,090	△ 1,009	△ 1,081
消費収入の部合計	2,910	4,210	△ 1,300
消費支出の部			
人件費	2,847	2,818	29
教育研究経費	1,371	1,377	△ 6
管理経費	452	367	85
借入金等利息	50	32	18
資産処分差額	1	19	△ 18
徴収不能額	2	3	△ 1
予備費	30	-	-
消費支出の部合計	4,752	4,616	136
当年度消費収入超過額	△ 1,842	△ 406	△ 1,436
前年度繰越消費収入超過額	3,594	4,000	△ 406
翌年度繰越消費収入超過額	1,752	3,594	△ 1,842

注 別表の金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計など数値が計算上一致しない場合がある。

別表6 資金収支予算書 (単位:百万円)

科 目	平成19年度 予 算	平成18年度 実 績	増 減
収入の部			
学生生徒等納付金収入	3,674	3,775	△ 101
手数料収入	90	99	△ 9
寄付金収入	78	26	53
補助金収入	722	868	△ 146
資産運用収入	300	270	30
資産売却収入	2,082	2,283	△ 202
事業収入	7	1	6
雑収入	75	130	△ 55
借入金等収入	1	1,201	△ 1,200
前受金収入	977	951	26
その他の収入	145	280	△ 135
資金収入調整勘定	△ 1,031	△ 1,145	115
当年度資金収入合計	7,120	8,738	△ 1,618
前年度繰越支払資金	2,843	3,518	△ 676
収入の部合計	9,963	12,257	△ 2,294
支出の部			
人件費支出	2,855	2,804	51
教育研究経費支出	1,017	1,033	△ 17
管理経費支出	420	335	85
借入金等利息支出	50	32	18
借入金等返済支出	101	101	0
施設関係支出	2,367	392	1,975
設備関係支出	69	103	△ 34
資産運用支出	2,455	4,582	△ 2,127
その他の支出	114	156	△ 42
予備費支出	30	-	-
資金支出調整勘定	△ 116	△ 123	7
当年度資金支出合計	9,361	9,414	△ 53
次年度繰越支払資金	602	2,843	△ 2,241
支出の部合計	9,963	12,257	△ 2,294